PAT-NO:

JP403167468A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 03167468 A

TITLE:

MULTIELECTRODE ELECTROPHORETIC

APPARATUS

PUBN-DATE:

July 19, 1991

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

ARAYAMA, HIROSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

ALOKA CO LTD

N/A

APPL-NO: JP01308780

APPL-DATE:

November 27, 1989

INT-CL (IPC): G01N027/447

US-CL-CURRENT: 204/608, 204/616

ABSTRACT:

PURPOSE: To freely control the migration direction of a sample locally by

providing electrodes to a plate gel in a matrix state.

CONSTITUTION: Electrodes 12 provided in a matrix state area in contact with

a plate gel 11 and selected by switching to apply voltage to the selected ones

and the sample of the plate gel 11 is electrically migrated in a desired

direction. The respective points of the lines 1 - 6 of the electrodes 12 and rows (a) - (f) thereof are selectively combined by switching to apply voltage to the combined ones and the migration direction of the sample is freely selected and altered in up-and-down, left-and-right and oblique directions and

the sample can be separated in locally different

COPYRIGHT: (C) 1991, JPO&Japio

directions.

即特許出願公開

@ 公 開 特 許 公 報 (A) 平3-167468

⑤Int. Cl. ⁵

識別記号

庁内整理番号

❸公開 平成3年(1991)7月19日

G 01 N 27/447

7235-2G G 01 N 27/26

3 1 5

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

公発明の名称 多電極電気泳動装置

②特 願 平1-308780

②出 願 平1(1989)11月27日

⑩発 明 者 荒 山 寛 東京都三鷹市牟礼6丁目22番1号 アロカ株式会社内

⑪出 願 人 アロカ株式会社 東京都三鷹市牟礼6丁目22番1号

砲代 理 人 弁理士 吉田 研二 外2名

明 和 自

1. 発明の名称

多電極電気泳動装置

2. 特許請求の範囲

平板ゲルを用いた電気泳動装置において、

前記平板ゲルに対して電極をマトリックス状に 設けたことを特徴とする多電極電気泳動装置。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、多電極電気泳動袋壁、特に平板ゲル に対して電極がマトリックス状に設けられた多電 極電気泳動装置に関する。

[従来の技術]

従来の電気泳動装置は、例えば一対の平板ガラスの酸間に平板ゲルを形成し、これに電気泳動を行う試料、例えばタンパク質やDNAを置き、ゲル中にプラス・マイナスの電極を設けて高電圧をかける。するとタンパク質やDNAの粒子の荷電が正か負かによって陰極あるいは陽極に向って移動を始める。移動速度は、DNAやタンパク質の

大きさによって異なるため、小さいものから大きいものへと順に並べて分離することができる。これはゲルが網目構造を持ち、分子篩(ふるい)として機能するため、大きい粒子は遅く、小さい粒子は速く通過して移動速度に差異をもたらすからである。従って、逆に試料の分離状態から粒子の大きさを測定することも行われている。DNAの場合は、電圧をかけると帯状に分離されるため、遺伝子配列の分析などに使われている。

このように、従来の電気泳動装置は、例えば知2回に示すように平板ゲルの両端に一対の組極を設けたり、また最近では第4回に示すパルスフィールド電気泳動装置のように、直角方向(X軸、Y軸)にそれぞれ一対ずつ電極を設けて、X軸電極19a、19bとY軸電極20a、20bに交互に電圧をかけることにより、矢印①、②で示す2次元方向に電気泳動を行うようにしたものがある。この装置は大きなDNAの分離などに有効である。

【発明が解決しようとする課題】

上記従来の電気泳動装置、すなわち平板ゲルの 岡端に一対の電極を設けたり、平板ゲルに対して 直角方向にそれぞれ一対ずつ電極を設け、交互に 電圧をかけて2次元電気泳動を行う装置では、泳 動方向が上下左右に限定され、斜めの方向への泳 動を行うことができなかった。

また、従来の電気泳動装置は、泳動方向を変えても特に試料金体を泳動させるものであるため、 泳動方向の局所的な制御が必要な固まったDNA などを効率よく分離させることができないという 問題があった。

さらに、各電気泳動装置は、それぞれ特徴を備え、分離する試料に応じた装置の使い分けが必要となるが、コストがかかるとともに、面倒であった。

発明の目的

本発明は上記問題点を解決することを課題としてなされたものであり、その目的は試料の泳動方向を局所的に制御することが可能で、かつ泳動方向を自由に変えることができるとともに、電圧分

の単位まで用いることにより、電圧をかける範囲 を変えて、従来のパルスフィールド電気体動装置 などと同様の電気体動に応用することができる。 【実施例】

以下、図面に基づいて本発明にかかる多電板電 気体動装置の好適な実施例について説明する。

第1図の各図は実施例に係る図であり、その
(A)は平面図、(B)は切欠断面図、(C)は
A-A線断面図、第2図は緩型電気泳動装置の断
面図、第3図はガラス板の分解斜視図である。

この実施例の平板ゲルは、第3図に示すガラス板13aの両端に2mm程度の凹隙を形成するスペーサ17を置き、その上からゲル注入口18を備えたガラス板13bを載せて周囲をバッキングし、ガラス板の間隙にポリアクリルアミドゲル作製用の混合液を注入して平板ゲルを作製した。

この実施例では、電気泳動を行う試料としてタンパク質の試料液を使用し、上記平板ゲルに添加 して実施した。

第1図 (B) に示されるように、この実施例で

布の変更を可能にして、1つの領気泳動袋置で各種の電気泳動袋置と同じ働きを取ね備えさせることのできる多電極泳動袋置を提供することにある。 [課題を解決するための手段]

上記目的を達成するために本発明は、平板ゲルを用いた電気泳動装置において、前記平板ゲルに対して電極をマトリックス状に設けたことを特徴とする。

[作用]

上記多電極電気泳動装置によれば、電気泳動装置の電極は、試料を含む平板ゲルに対してマトリックス状 (網状) に細かく配置されて、どの方向からも電圧がかけられる構成となっている。

従って、電極がマトリックス状に致けられているので、任意の電極を選択して、局所的な選圧制 御を行うことができる。これにより、DNAなど を効率よく分離することが可能になる。

また、選択する電極の位置により、泳動方向を 自由に変えることができる。

更に、電極を一対の最小単位から列や行の複数

は、平板ゲル11に対してマトリックス状の電極を設ける手段として、ガラス板13aにアクリルなどの加工の容易な透明な板に電極用の穴をマトリックス状に形成し、これに電極を挿入して配線を行ったものである。

平板ゲル11には、各電極12がマトリックス 状に接しているため、これらの電極12を適宜ス イッチングなどで選択して理圧をかけることによ り、平板ゲルの試料を所望の方向へ提気泳動させ ることができる。

第1図(A)に示される電板12の位置は、a ~ (までの列と、1~6までの行で表される。d - 1とd - 3の電極をスイッチングにより選択して、例えば真下方向に世圧をかければ矢印①のように電気泳動が起り、次にd - 3とb - 3を選択して左横方向に電圧をかければ矢印②、b - 3とd - 5を選択して斜め方向に電圧をかければ矢印③というように試料の泳動方向を選査変化させることができる。

さらに、この灾陥例の装置の利点は、従来の電

気泳動装置で行われる電気泳動手段をこの装置だけで全て行うことができる。

すなわち、個々の電板同士だけでなく、1行と 6行のライン上の電板を一対とし、a列と f 列の ライン上の電板を他の一対として、交互に電圧を かけることにより、従来のパルスフィールド電気 泳動装置と同様の電気泳動を行うことができる。

また、試料にDNAを用いて分離を行う場合は、 まず同図 (A) の矢印④方向に電気泳動を行う。 次にd-1とd-3の電極間に電圧を印加するこ とにより、局所的に違う方向へ分離できるため、 効率のよい分離が可能である。

第1図(C)は、第1図(A)のA-A線断面 図である。電極12の間に電圧をかけると、平板 ゲル内を矢印方向に電流が流れ、その間だけに電 気泳動を起すことができる。ここでは電圧を1000 V、電流を10mA程度流して電気泳動を行った。 実際に平板ゲルに高電圧をかけて電気泳動させ ると、通電発熱などによりゲルの温度分布が変化

して泳動方向がずれる、いわゆるスマイリングと

いう現象が起きることがある。しかし、この実施例では、マトリックス状の電板12を通宜選択して電圧分布を変化させ、電気的にスマイリングの 並正を行うことができる。

試料がDNAの場合は、エチジュウムプロマイド(EB)を予めゲルに注入しておいて、DNAの地気泳動を行うと、DNAがエチジュウムプロマイドと反応し、これに紫外線(UV)を当てると発光する。この発光状態をモニタテレビでモニタし、これを走査して発光分布を信号に変換処理をして、これをバターン認識させてコンピュータ処理することにより、一連のDNAの泳動発生していた。スマイリング現象が発生しているスはの電極を適宜選択して、スマイリング現象にあるスないの電極を適宜選択して、スマイリング現象にあるスないの電極を適宜選択して、スマイリング現象にあるないの電極を適宜があることにより、適正な電気泳動を行うことが可能になった。

タンパク質の試料を使った場合は、染色により 泳動状態を容易に認識することができるため、D

NAの場合と同様にしてスマイリング現象の前正を行うことが可能である。

この実施例で用いられた平板ゲルは、ポリアク リルアミドゲルを用いて実施したが、これ以外に アガロースゲル (寒天) などを用いることもできる。

[発明の効果]

以上説明したように、本発明にかかる多電極電気泳動装置によれば、マトリックス状の電極を適宜選択することにより、試料の泳動方向を局所的に制御することが可能になり、泳動方向を自由に変えることができるとともに、電圧分布を変更させて、従来の各種の電気泳動装置と同じ働きを兼ね縮えることができるようになった。

4. 図面の簡単な説明

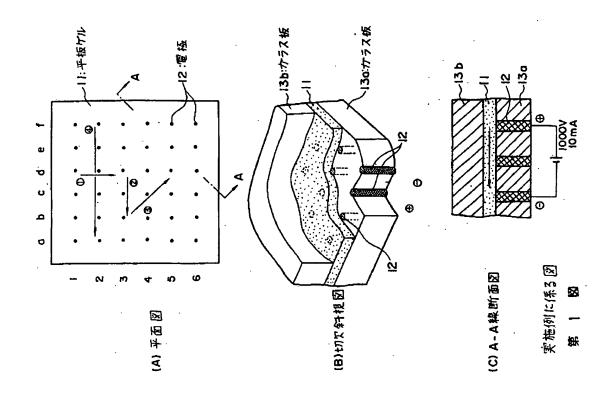
第1図各図は、実施例に係る図で、その(A)は平面図、(B)は切欠斜視図、(C)はA-A 線筋面図、

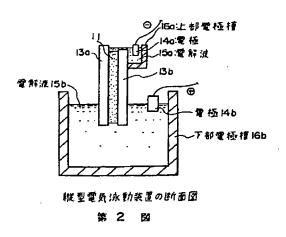
第2回は、接型電気泳動装置の断面図、 第3回は、ガラス板の分解斜視図、 **筑4図は、パルスフィールド電気泳動装置の平面図である。**

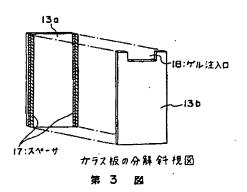
11 … 平板ゲル

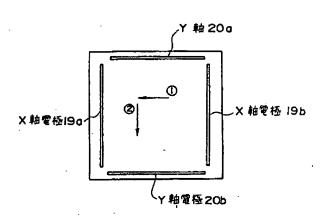
12 … 稅極。

出願人 ア ロ カ 株 式 会 社 代理人 弁理士 吉 田 研 二 (ほか2名) [D-14]









パルスフィールド電気泳動装置の平面図

第4数